

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300735		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑いわふね		
所在地	栃木県下都賀郡岩舟町静1281-1 (電話) 0282-54-3133		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤7人, 常勤換算7人	
	7 人	常勤7人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の 経費 (月額)	・理美容代—2,000円、・おむつ代—150円/1枚、 ・日用消耗品—150円/1日、・教養娯楽費—100円/1日、 ・光熱費—350円/1日、・電気代—50円/1日/1点		
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,380 円		

(4) 利用者の概要(平成20年8月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松原医院、石川歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>法人内に当ホームを含めて3つのグループホーム(計5ユニット)があり、勉強会や行事などで連携を取っている。記録様式の種類は多く、事故報告書やヒヤリハット報告書に対応する形での対応表をつくったり、家族との面談記録をつくったりと工夫を加えている。ホームから歩いていける距離に町営の文化ホールや図書館があり、本やCD、紙芝居を借りて楽しんでいる。今年度からは食材を地域の商店から購入するようにしたり、9月からは運営推進会議に町の職員が参加することになった。毎月の定例ミーティングは入居者のことについて話し合ったり、職員が意見を言える場になっている。ホーム内の勉強会の後に各職員がレポートを作成するなど勉強会の持ち方にも工夫がなされている。運営者、管理者、職員ともに気さくな人柄で、入居者に対してもやさしく丁寧に接していた。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>これまでは運営推進会議に町職員の参加がなかったが、9月から参加してもらえるようになった。定例ミーティングなどで意見を出し合い、また勉強会などを通して改善やサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>自己評価はすべての職員が個別に実施した上で、管理者がまとめた。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>入居者、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。入居者は順番で1回あたり複数参加してもらっている。会議では行事等を報告し、また入居者が希望や意見を述べる場にもなっている。9月からは町職員が参加する予定である。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>毎月の利用料支払い時など家族が訪れたときに報告するほか、毎月受け持ち職員による手紙と写真を家族に送付している。預かり金は個別の帳簿で管理し、家族の訪問時に報告している。2か月に1回法人全体の広報紙を発行しており、職員紹介のコーナーも設けられている。玄関にホームの苦情受付担当者及び県運営適正化委員会の連絡先を掲示し、意見箱を置いている。玄関の他、リビング・ダイニングにも苦情受付についての掲示をしている。家族との話し合いの内容は家族面談表に記録化し、要望や意見があったときには伝達帳を活用して職員間での共有を図っている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>入居者の昔馴染みの方や近所の方などが気軽に訪ねてくる関係ができています。今年度から食材を地域の商店から購入し、納入してもらった形にした。自治会には加入していないが、地域の民生委員の方から地域行事の情報などを得ている。地元の小学校から運動会に誘われたり、近所にある図書館を活用したりしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの人間性を重視すること」や「住み慣れた地域での社会参加を積極的に支援すること」など5つの項目を理念として掲げている。その他「ゆったり、たのしく、いっしょに」の行動指針をつくっている。その他にユニットごとに年度の目標をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パンフレットに理念を掲載し、ホーム内には理念、行動指針、介護十則などが掲示されていた。朝夕の申し送りや毎月実施する定例ミーティング（職員会議）で唱和して共有を図り、また入居者の状況を共有して理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の昔馴染みの方や近所の方などが気軽に訪ねてくる関係ができています。今年度から食材を地域の商店から購入し、納入してもらった。自治会には加入していないが、地域の民生委員の方から地域行事の情報などを得ている。地域の小学校から運動会に誘われたり、近所にある図書館を活用したりしている。	○	気軽にホームに来てくれる方との関係を大切にしながら、今後も地域の方々と「普段着」の付き合いを深めていくことに期待したい。また、自治会などとの連携も検討しながら理念の一つでもある積極的な社会参加の支援を深めていくことにも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はすべての職員が個別に実施した上で、管理者がまとめた。これまでは運営推進会議に町職員の参加がなかったが、9月から参加してもらえるようになった。定例ミーティングなどで意見を出し合い、また勉強会などを通して改善やサービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。入居者は順番で1回あたり複数名参加してもらっている。会議では行事等を報告し、また入居者が希望や意見を述べる場にもなっている。9月からは町職員が参加する予定である。	○	例えば自治会の方など入居者の地域での生活を支えていく上で必要となる人・機関に参加してもらおうなど、運営推進会議の場を更に活かしていけるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口になって町に報告や相談ごとをしており、運営推進会議の議事録を提出している。町の担当者からは入居者の状況伺いや利用状況の紹介などで連絡がある。9月からは運営推進会議に参加してもらおう予定である。	○	運営推進会議に参加してもらえるようになったことからホームの現状やホームだけで解決することが困難なことなどを一緒に考えていく関係をつくっていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料支払い時など家族が訪れたときに報告するほか、毎月受け持ち職員による手紙と写真を家族に送付している。預かり金は個別の帳簿で管理し、家族の訪問時に報告している。2か月に1回法人全体の広報紙を発行しており、職員紹介のコーナーも設けられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にホームの苦情受付担当者及び県運営適正化委員会の連絡先を掲示し、意見箱を置いている。玄関の他、リビング・ダイニングにも苦情受付についての掲示をしている。家族との話し合いの内容は家族面談表に記録化し、要望や意見があったときには伝達帳を活用して職員間での共有を図っている。	○	管理者は家族とのつながりを大切にしていきたいと考えている。運営推進会議に家族の参加を呼びかけることを検討していたが、開催日時の関係もあって実現にはいたっていない。例えば行事の機会なども活かしながら家族との接点をつくっていく中で、気軽に意見や要望を伝えてもらえるよう関係を深めていくことにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的というわけではないが、法人内の異動があり、今年度は管理者及びホーム長が同法人の他ホームから異動してきた。職員の交代がある時には引き継ぎの時間をとって、入居者になるべくダメージがないように配慮している。同法人内の事業所が比較的近いことから、異動後もホームに寄るなど関係を切らない配慮もしている。また法人として託児施設があり、働き続けやすい環境づくりもされている。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1回の法人内研修のほか、ホーム内での学習会の機会があり、時宜に応じた、あるいは支援上必要なことについて学ぶ機会をつくっている。内部の勉強会であっても各職員がレポートを作成するなど、知識の理解を深めたり定着を図ったりするための工夫がされている。外部研修は、認知症介護実践研修などは経験に応じて、その他の研修は希望者を募って参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。法人内に当ホームを含め3事業所、計5ユニットのグループホームがあり、勉強会や行事等で連携している。他事業所からの実習なども受け入れている。	○	他市の事業所の実習を受け入れた際に今後の交流を打診された。法人内に複数のグループホームがあることが特徴であるが、職員が様々なホームを見学したり、交流することで質の向上につなげていくことにも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	敷地内のデイサービスセンター利用者が入居となる時にはデイサービスセンター職員と一緒にホームに来てもらうなど、入居前には必ず本人にホームの様子を見てもらうようにしている。入居当初は家族にホームにまめに来てもらったり、電話で話をしてもらって不安の軽減を図ったり、食事の席などを考慮して入居者間の関係づくりに配慮したりと徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりのできることに配慮しつつ無理のない範囲で家事をしたり職員と一緒にいたりしている。職員は、入居者から裁縫や料理の味付け、郷土料理などを教わったりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりについてセンター方式のアセスメント様式を使って本人像を把握するよう努めている。個人記録も本人の言葉が詳細に記載され、希望や意向の把握、支援上の手がかりを普段の生活の中から探り、本人本位の検討をしている様子がうかがえた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き、必要に応じて医師の指示や法人内の栄養士などのアドバイスを踏まえて介護計画を作成している。また、定例のスタッフミーティングやサービス担当者会議で職員間で話し合いを持っている。職員の受け持ち制を取り入れている。	○	家族とのつながりを深めたいと考えているので、介護計画作成場面でも本人や家族の参加度を高めていくことにも期待したい。また、センター方式アセスメントや職員間の話し合いなどで本人像の把握に良く努めていることから、より個別性のある介護計画の作成を追求していくことにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月を目安にサービス担当者会議を開催し、モニタリング記録表で家族に評価をしてもらって定期的な見直しを行っている。また、状況の変化等があった時には随時見直しをしている。日常の中でのケアの方法の見直しなどは伝達帳を活用して職員間の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算及び短期利用共同生活介護（ショートステイ）の指定を受けている。希望に応じて職員と1対1や少人数で買い物に出掛けたりと柔軟な支援に努めている。敷地内にデイサービスセンターがあり、特殊浴槽を借りたりといった連携も図っている。		

グループホーム八州苑いわふね


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医院が協力医療機関になっており、月2回定期受診をしており、受診結果を家族に伝えている。また受診結果を一覧にまとめている。その他の病院等の受診は家族が付き添っているが、受診結果を聞いたり薬剤情報提供書などをもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までにホームで看取りを行った事例はないが、「看取りの指針」を策定しており、本人・家族の意向にそった支援をすることを方針としている。職員の勉強会などでも取り上げている。協力医療機関である法人の医院の医師とは24時間連絡が取れるようになっており、また法人内の老人保健施設と契約して医療連携体制加算の指定を受け、必要に応じて敷地内のデイサービスセンターの看護師に相談できる体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	リビング兼ダイニングに個人情報の取り扱いについて掲示しており、個人記録等は事務室で保管している。入居者に対しては「さん」付けで呼んだり、トイレの回数を小声で聞くなどプライドに配慮した対応を心がけている。職員は入居者に対して穏やかに丁寧に接していた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れや月ごとの行事の計画はあるが、入居者に聞きながら無理強くない支援している。入居者から買い物の希望があれば、他に行きたい方を募ったりして、なるべく一人ひとりの希望やペースにそった支援を行うよう努めている。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は地域の商店から届くが、調味料などは一緒に買い物に出掛けている。入居者のできることに配慮しつつ、下ごしらえや味付け、おやつ作り、洗い物、食器ふきなどを入居者が行ったり職員と一緒にしたりしている。外食や法人内老人保健施設で実施するバイキングに出掛けたりもしている。職員は1名は同じものを食し、その他の職員は弁当などを一緒に食している。	○	ホームの理念でもある「家庭的」という観点から、職員全員が入居者と一緒に同じものを食べることを前向きに検討することにも期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	13：30～17：00の時間帯を目安に入浴を支援している。すべての方が毎日入浴するわけではないが、入浴の希望はすべての方に毎日聞いている。「一番風呂」の希望が重なり、じゃんけん調整をしている。入浴剤を使ったり、職員との会話で入浴を楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることに配慮しながら、無理のない範囲で掃除、調理、洗濯物干し・たたみ等を一緒に行っている。職員の特技を活かして、生け花や習字などをする機会をつくったり、裁縫や編み物、日記など個々人で楽しんだりもしている。週に一度は行事的な外出の機会をつくっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天候を見ながら散歩や買い物に出掛けている。週に1回は行事的な外出の機会もつくっている。入居者の希望で自宅近くをドライブしたり、親戚の家に行ったりと一人ひとりの希望にそった外出の支援にも努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の目の前が道路になっており、家族に了解を得たうえで事故や不審者の侵入防止のために玄関には施錠している。外出の希望がある時にはその都度対応したり、外出する機会をつくったり、玄関先で外気に触れる機会をつくったりと圧迫感のない暮らしの支援に努めている。	○	入居者の安全に配慮しつつ、玄関を施錠していても圧迫感のない暮らしを支援していくための環境づくりを大切にしながら、地域との連携や職員の見守りの仕方など鍵のないケアの実践に向けた検討を続けていくことに期待したい。

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を実施している。最近、消防署の分署が比較的近くにできた。	○	消防署が近くにできたことを活かして、救命救急講習が行えないか検討してみるなど消防との連携を深めるとともに、訓練などの際に地域の方の参加を呼びかけてみたりしていざという時に協力してもらえそうな関係づくりをしておくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士により作成されている。おやつメニューはホームで考えている。食事・水分の摂取量を確認・記録し、適切な摂取ができるよう支援している。食べられないものや嫌いなもの等の時は代替品を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼ダイニングには、季節ごとの飾り付けや花などを飾っている。日差しはカーテンやよしずで遮っている。気になる音や空気のよどみ等はなかった。テレビの前にあるソファのテーブルに新聞が置いてあったり、キッチンのカウンターにお茶を注げるようにしてあったり生活感のある空間づくりにも配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、机、イス、テレビ、タンス、位牌など入居者それぞれに家具等を持ち込み、それぞれに特徴ある居室になっていた。写真や飾りつけなどは職員が支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。